

## P45 脳血管障害後精神症状に対する加味温胆湯、銀杏葉エキス (GBE) の併用療法

○丸山 哲弘 (飯田市立病院内科)

〔目的〕最近、脳代謝賦活薬などの薬効見直しによって脳血管障害後遺症に対する薬物療法の選択性が少なくなり、患者のQOLに影響が生じてきている。一方、多くの患者の家族は本疾患の精神障害に対する保険薬以外の治療薬を期待している。近年、アルツハイマー病に対する代替医療として漢方薬である加味温胆湯やハーブ薬である銀杏葉エキスの有効性 (二重盲検法) が報告されている。この二つの薬剤は保険薬として認可されたものではない。そこで、意欲低下および抑うつ症状を呈する脳血管障害患者に対して加味温胆湯 (カネボウ) と銀杏葉エキス (GBE24:サンウエル社) の長期投与 (2年) の有効性を検討した。今回は1年後の評価を報告する。

〔方法〕対象は、本研究に同意した脳血管障害後遺症患者および家族で SKETCH 研究会の面接で自発性および感情の障害が少なくとも1項目に重症度2以上の8例 (全例脳梗塞)。平均年齢 77.6±6.8 歳。男性2例、女性6例。方法は、加味温胆湯 6.0g/日と銀杏葉エキス3錠 (120mg) /日を48週間投与し、投与前、8週後、16週、24週、48週後に SKETCH 重症度、老人性抑うつ尺度 (GDS)、ミニメンタルテスト (MMSE) を評価した。投与中の有害事象を併せて評価した。併用薬は、抗血小板薬 (アスピリン、チクロピジン) の投与は可、脳代謝賦活薬 (サアミオン®、グラマリール®、アマンタジン®)、脳血流改善薬 (ケタス®、セロクラール®) の投与は禁忌。最終評価は、SKETCH 重症度が1項目でも2段階減少なら改善、それ以外は無効とした。

〔成績〕自発性障害は改善6例、無効2例 (有効率75%)、感情障害は改善7例、無効1例 (有効率89%) であった。東洋医学的分析では、自発性障害に改善を示した患者には気虚のスコアが高い傾向が、感情障害に改善を示した患者には痰飲のスコアが高い傾向がみられた。MMSE や GDS は投与前、4週後、8週後に有意な変化はなかったが、改善傾向を示した。有害事象は全例、全経過にわたりみられなかった。副次効果として、睡眠障害 (有効率75%)、便秘 (有効率60%)、食欲低下 (有効率60%) に対しても改善がみられた。また、家族の満足度は100%良好であった。

〔結論〕脳血管障害後遺症の意欲低下と抑うつに対して加味温胆湯と銀杏葉エキスの長期併用療法は安全かつ有効であると結論された。